

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>本事業では、事業終了後3～5年後に達成すべき上位目標として「直接および間接受益者の生活が改善する」ことを設定している。フェーズ1実施中(2011年)及びフェーズ2実施中(2012年)に実施したPersonal Household Information (PHI)調査<sup>1</sup>結果の比較から、受益者世帯の平均月収が110,216ksから138,353ksに増加していること、家財所有状況が改善していること(バイク:27%→47%、テレビ:34%→42%、電話:1%→4%)、栄養バランスのよい食事が摂れている世帯の割合が48%から65%に改善していること、家屋の素材が改良されていること(トタン屋根:68%→81%)、また、調査月の前月に医療費を支出した受益者世帯の割合が35%から23%に減少していることなど、直接および間接受益者の生計(生活)が向上している状況が確認できている。</p>
(2) 事業内容	<p>本事業は、ミャンマー国中央乾燥地に位置するメティラ郡において、当法人が実施している「生計向上プログラム(健康教育、技術研修、小規模無担保融資、健康保険、貯蓄を組み合わせた事業)」のうち、「健康教育」と「技術研修」の拡充を図ることで、貧困層女性の生計(生活)向上に寄与することを目的とした3年間事業の2年目(フェーズ2)にあたる。本事業(フェーズ2)では、同郡49村に居住する貧困層女性約1,900人を対象に、下記4つの活動を実施した。なお、生計向上プログラムへの参加実績に基づき、全49村を実績2年以上の36村(A群)、実績2年未満の13村(B群)に分け、それぞれの状況に応じた介入を行った。事業内容詳細は別添1を、事業の内容及び効果に関する写真は別添2を参照されたい。</p> <p><b>活動1. 健康教育</b></p> <p>フェーズ1より継続して活動しているピアエドゥケーターと、本事業(フェーズ2)で新規に選出されたピアエドゥケーター計73人に対し、4トピック(栄養、安全な妊娠と出産、デング熱、結核)の基礎知識及び健康教育実施能力の向上を目的とした研修を3回実施した。同研修を受講したピアエドゥケーターにより、各トピックの健康教育が787回開催され、延べ19,810人の受益者が参加した。また、県保健局からの要望により、特に健康知識改善が求められる2村において、全村民を対象とした母子保健啓発ミーティングを開催し、延べ207人の村民が参加した。健康教育や母子保健啓発ミーティングでは、県立病院や管轄地域補助保健センターの保健医療スタッフが講師やファシリテーター役を務めたことにより、地域住民とのより良い連携関係を構築することができた。また、受益者自身が健康教育の成果を発表する「健康コンテスト」を開催し、健康教育の知識が母子の命を救った例など、10村での優秀事例が発表された。</p> <p><b>活動2. 農業研修</b></p> <p>農業研修初級コース(有機農法ならびに家庭菜園)を、フェーズ1で未開催のB群(12村<sup>2</sup>)にて開催し、農業研修受講経験がない、もしくは農業技術の向上に高い関心を持つ受益者計304人が受講した。研修に先立ち実</p>

<sup>1</sup> 受益者の世帯情報、金融資産や不動産などの経済状況及び、健康状況を調べる調査

<sup>2</sup> B群13村の内、1村では農業が行われていないため農業研修を開催しなかった

施した聞き取り調査及びフェーズ1での経験から、受益者が化学肥料に依存し過ぎている状況が認められたため、有機肥料の作り方及びその使用方法を重点的に研修内容に盛り込んだ。また、農耕地を持たない受益者層にも配慮し、狭い場所でも栽培可能なマッシュルーム栽培方法も研修項目に盛り込んだ。研修では、研修手引書を受講者に配布した他、ボカシ堆肥や有機防虫剤などを実際に作る実技演習も含め、受益者の理解促進に努めた。

### 活動3. 畜産研修

畜産研修初級コース（養豚、養鶏・ヤギ、養牛、飼料配合方法）を、フェーズ1で未開催のB群（13村）で開催し、畜産研修受講経験がない、もしくは畜産技術の向上に高い関心を持つ受益者計323人が受講した。研修に先立ち実施した郡畜産局との協議ならびに受益者から聞き取り調査により、対象村で主要な家畜である豚と牛に重点的を置きつつ、鶏やヤギについても追加説明として盛り込んだ研修内容とした。研修では、研修手引書を受講者に配布した他、飼料配合方法を実技演習するなどし、受益者の理解促進に努めた。

### 活動4. 成果発表会の開催

本事業終了時に、受益者が自らの成果を発表する会を開催した。「生計向上成果発表会」では、研修で学んだ農業・畜産技術を活かし、収入源を多様化することに成功した12名が、個々人の経験や成果を共有した。また、「事業成果発表会」を開催し、保健省や県畜産局など地方行政職員約40人の他、受益者ら計168人が見守る中、先述「健康コンテスト」と「生計向上成果発表会」の優秀者がそれぞれの成果を発表した。このコンテストの様子は、地元紙でも紹介され、広く地域の方々に本事業の成果を紹介することが出来た。

(3) 達成された効果

3年事業の2年目（フェーズ2）にあたる本事業では、以下3つの成果を達成することが出来た。

### 成果1. 直接受益者の基礎保健知識（栄養、デング熱、安全な妊娠と出産、結核）が向上する

（指標1-1）8割の直接受益者が健康教育に参加する達成

いずれのトピックにおいても、平均して8割を超える受益者が参加した。

トピック	1回目	2回目	3回目	4回目	平均
栄養	1,781人 (92%)	1,710人 (89%)	1,447人 (91%)	-	1,646人 (91%)
デング熱	1,786人 (91%)	1,780人 (91%)	1,775人 (90%)	1,691人 (90%)	1,758人 (91%)
安全な妊娠と出産	1,761人 (91%)	1,722人 (89%)	1,681人 (87%)	-	1,721人 (89%)
結核	1,698人 (88%)	1,675人 (89%)	-	-	1,687人 (89%)
全体平均					1,703人 (90%)

(指標 1-2) ピアエデュケーターに選ばれた直接受益者の 8 割が適切に健康教育を実施できる

達成傾向

ピアエデュケーター73名の内、本事業（フェーズ2）期間中に65名が健康教育を実施し、彼女たちの健康教育技術を、1)健康知識や教材の使い方、2)コミュニケーション能力、3)マネジメント能力、の3項目から点数化した結果、75%が適切に健康教育を実施できていることが確認できた。フェーズ3から始めるピアエデュケーターも含め、引き続き健康教育実施状況をモニタリングし、質疑応答の取り入れ方や話し方など必要に応じて助言を行いたい。

(指標 1-3) 健康教育事前事後テストの正解率が 8 割を超える

達成傾向

健康教育を受講した受益者を対象に、選択問題型の事前事後テストを実施したところ、A群（活動実績2年以上の36村）では正解率が32%から84%に、B群（活動実績2年未満の13村）では28%から82%に改善したことが確認できた。なお「栄養」に関し、B群の事後テスト結果が当初62%と低かった<sup>3</sup>ため、復習セッションを行うことで、本事業期間中に85%まで改善することが出来た。B群の「 Dengue熱」「安全な妊娠と出産」の正解率が80%に達していないことから、フェーズ3では重点的にフォローアップしていきたい。

トピック	A群 (2年以上36村)		B群 (2年未満13村)	
	事前テスト 正解率	事後テスト 正解率	事前テスト 正解率	事後テスト 正解率
栄養			7%	85%
Dengue熱	34%	81%	31%	77%
安全な妊娠 と出産	26%	83%	19%	79%
結核	35%	88%	55%	86%
平均	32%	84%	28%	82%

**成果 2. 直接受益者の農業に関する知識と技術が向上する**

(指標 2-1) 活動実績2年未満の村（13村）の受益者の40%が農業研修初級コースを受講する

達成

B群（活動実績2年未満13村）の内、13村の受益者494人<sup>4</sup>中62%にあたる304人が農業研修初級コースを受講した。

(指標 2-2) 研修参加者の50%が、研修で得た知識と技術を生計向上の

<sup>3</sup> 中間報告時の数値

<sup>4</sup> 中間報告では651人と記載したが、494人の間違い。

ために利用できる

**達成**

本事業終了時点で、研修参加者 304 人の内、60%にあたる 183 人<sup>5</sup>がポカシ堆肥を活用し始めたり、マッシュルーム栽培を開始するなど、研修で学んだ知識及び技術を生計向上のために活用していることが確認できた。

**成果 3. 直接受益者の畜産に関する知識と技術が向上する**

(指標 3-1) 活動実績 2 年未満の村 (13 村) の受益者の 40%が畜産研修初級コースを受講する

**達成**

B 群 (活動実績 2 年未満 13 村) の内、受益者 480 人中 67%にあたる 323 人が畜産研修初級コースに参加した。なお、内 1 村では、伝統的宗教信仰により養豚をしていないため、養豚を除く研修項目のみ開催するなど、社会文化的背景に配慮した。

(指標 3-2) 研修参加者の 30%が、研修で得た知識と技術を生計向上のために利用できる

**達成**

本事業終了時点で、研修参加者 323 人の内、78%にあたる 253 人<sup>6</sup>が適切な飼育環境を整えたり、飼料の使用方法を改善するなど、研修で学んだ知識及び技術を生計向上のために活用していることが確認できた。

なお本事業 (フェーズ 2) 終了時における、プロジェクト目標の達成状況は以下の通り。

**プロジェクト目標：直接および間接受益者の生計 (生活) が向上する**

(指標 1) 直接受益者の 3 割が適切な保健行動を取る

**達成**

本事業終了時に実施した生活習慣調査によると、手洗いや洗髪などの「個人衛生」、台所の清掃や飲料水用コンテナの洗浄、蚊の発生を減らすための水場の処理といった「環境衛生」に関連した行動変容が発現しており、A 群 (活動実績 2 年以上 36 村) では平均で 73%の受益者が、B 群 (活動実績 2 年以下 13 村) では 65%が適切な保健行動を取っていることが確認できた。フェーズ 1 からの推移は下記の通り。

対象 トピック	A 群 (2 年以上 36 村)		B 群 (2 年未満 13 村)	
	フェーズ 1 (2011 年)	フェーズ 2 (2012 年)	フェーズ 1 (2011 年)	フェーズ 2 (2012 年)
個人衛生	76%	81%	65%	74%
環境衛生	52%	65%	43%	57%
平均	64%	73%	54%	66%

<sup>5</sup> 研修で学んだ知識及び技術を活用するにあたり、183 人の内、96%にあたる 176 人が、当法人が自己資金により実施しているマイクロファイナンスサービス (農業短期融資) を利用しており、より良い相乗効果が確認できた。

<sup>6</sup> 研修で学んだ知識及び技術を活用するにあたり、253 人の内、85%にあたる 217 人が、当法人が自己資金により実施しているマイクロファイナンスサービス (畜産短期融資) を利用しており、より良い相乗効果が確認できた。

	<p>フェーズ3では、基礎保健スタッフや保健ボランティアら関係機関との協力関係をさらに強化することで、ピアエドゥケーターを中心とした健康教育がより持続発展的に実施され、結果として適切な個人衛生ならびに環境衛生行動を取る受益者がさらに増えることを期待している。</p> <p>(指標2) 研修参加者の5割が生計手段・収入を拡充できる 達成傾向</p> <p>研修実施後のモニタリングならびにPHI調査結果によると、研修参加者の内、フェーズ1事業では4割が、本事業では7割が、研修で学んだ知識及び技術を活かして生計手段の拡充に取り組んでいることが確認できた。フェーズ3では、実際に農耕地を訪問して行う実技指導の充実や、より専門的な知識・技術を含んだ中級コースの研修を提供することで、研修参加者の生計手段・収入が更に拡充されることを期待している。</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業では、健康教育を実施するピアエドゥケーターの育成、生計向上手段の多様化を目的とした技術研修の開催や、地元関係機関と受益者との関係構築を通じ、持続発展性を高めるよう配慮した。健康教育に関しては、受益者の基礎保健知識の向上が、受益者自身だけでなくその世帯家族のさらなる行動変容を促すことが期待される。また、健康教育を受講した受益者が、日常生活の様々な機会を通じ、他住民にも学んだ知識を伝えていることから、健康教育に参加していない住民へも知識が伝達され、地域全体の健康改善、生活向上が促されることが期待される。技術研修に関しては、研修で学んだ知識及び技術を活かし、生計手段の拡充に取り組んでいる受益者も出ており、今後の更なる生計改善が期待されている。最終年にあたるフェーズ3事業では、保健活動及び生計活動がより定着し、知識の拡充と技術の向上が長期的になされるよう、受益者と地方行政(保健行政ならびに農業局や畜産局)とのネットワークを強化することで、持続発展性をより高めていきたい。</p>